

魚鳥ヲ曾テ門内ニ不入是ハ強テ戒ムルニハアラザレドモ、殺生ヲ不好也、石決明、榮螺、蛤蜊ナドハ、面目モナク蠢動スル計ナレバ、餘ノ魚鳥トハ各別也、佛者ノ殺生戒ニモ非ズ、儒者遠庖厨トノ戒ニモアラズ、神職ノ家ニ生タル故也、

〔近世畸人傳〕二僧鐵眼

僧鐵眼○中略攝津國難波村瑞龍寺を建立せり、世人今猶鐵眼をもて其寺を稱す、一切經の藏板を思ひたちて勸進せしに、其料金集れるころ、天下大に餓しかば、師憐みて、件の金を不殘施し、又如前勸進せるに、數年ならず又集りたるが、再び五穀不熟にて、餓死多ければ、此たびも此金を施行に盡せり、されども德の至りにや、第三回の勸進にて、藏經の印刻成就して、其經を頌つ所の代金を本寺より已下、一宗の寺々に配ること今に於て同じ、

〔窓の須佐美〕中國にある商家の富有名るもの、老後煩て心地死ぬべしと覺ければ、子を呼て云けるは○中略抑人の利を求て富をこひねがふは、もと衣食に乏しからじと也、然るに其人死なずしてあらずはあらじ、死に向ふ時餓に及ぶこと、上中下同じ、とても終には飢ぬべき身ぞかし、強て利を求め欲にふけり、人を苦しめ愛を失ふ事をやめて、一日も心を仁に歸して、道に背かざらん様にと、こゝろがくべきものぞと思ふはいかにと云て死せしとぞ、

〔銀臺遺事〕○地一仁愛の御心○細川重賢をもて、仁愛の政をおこなひ給ひければ、民の竈も年にまして賑ひ誰す、むとはなけれども、寶曆の中頃より、家毎に殿様祭りといふ事をはじめて、年に一たびかならずしけり○下略

〔孝義錄〕六武藏奇特者新井孫助

足立郡藏○武庄左衛門新田の民に新井孫助とて、○中略すぎはひもゆたかなりしが、明和三年出水ありて、其あたりのたなつものみなみのらす、年の貢ゆるくせん、多少をはかるとて、時の御代官